

Ibaraki Association of Architects & Building Engineers

けんちく茨城

No. 91 June, 2016

[特集]

平成27年度

「いばらき木造塾」終了報告

[報告]

平成28年度通常総会

[建築作品紹介]

日立市立水木小学校



一般社団法人
茨城県建築士会

目次

[総務・企画委員会報告]	平成28年度通常総会開催される	1
[特集]	平成27年度「いばらき木造塾」終了報告	2
[建築作品紹介]	日立市立水木小学校	4
[シリーズ]	ようこそフレッシュマン!! 岡崎 和裕さん、菊地 政也さん、鈴木 達也さん、須田 裕美さん、関 康彦さん	6
[シリーズ]	先輩会員を訪ねて 廣瀬 茂 氏、金沢 悦男 氏 インタビュー	8
[総務・企画委員会報告]	平成28・29年度新役員一覧 / 平成28年度事業計画	9
[会員委員会報告]	第19回会員美術展開催。今年も会員の皆さんの力作が揃いました!	10
[青年女性委員会報告]	初の「合同交付式」に86名が参加、早速11名が会員に。 平成27年度一級・二級・木造建築士免許証明書交付式	11
[女性委員会報告]	「わくわくセミナー」リフォームや省エネの今を考える機会に	12
	「ラブアークセミナー」ひょうたんランプに感激	12
[県央支部報告]	「第10回都市景観ウォッチング」開催 市民の皆さんと三の丸歴史ロードを歩き、その魅力を満喫	13
[JR水戸支部報告]	「都市の床の間」をコンセプトにした石岡の新たな玄関口 常磐線石岡駅橋上化及び自由通路新設工事	14
[ひたちなか支部報告]	全長14.3kmのローカル線「ひたちなか海浜鉄道」に乗り、 途中下車をしながらのんびりと歴史的建造物を巡る旅	16
	大人も子どももハイスコアを目指して大奮闘! 家族ぐるみで交流を深めあうよい一日に	17
[石岡支部報告]	世界遺産・富岡製糸場と重伝建・桐生新町を訪ね、 住む街を愛する心の大切さを学ぶ	18
[土浦支部報告]	優しく触れてオキシトシンの分泌を促すタッチケア スウェーデン発祥の「タクティール®ケア」を体験	19

会報 **けんちく茨城**

題字 **橋本 昌** 茨城県知事

2016年6月 第91号

表紙写真 **日立市立水木小学校**

設計・監理 (株)横須賀満夫建築設計事務所

所在地 日立市

建築面積 2,067.53㎡

延床面積 4,112.29㎡

構造 鉄筋コンクリート造一部鉄骨造、
地上3階

発行 平成28年6月10日(年3回発行)

次回発行 平成28年10月5日予定

発行部数 2,400部

発行所 一般社団法人 茨城県建築士会 会長 柴 和伸

〒310-0852 水戸市笠原町978-30 建築会館2F

TEL.029-305-0329 FAX.029-305-0330

Eメール kyy05413@nifty.com

編集 情報・広報委員会

デザイン 有限会社平井情報デザイン室

印刷所 株式会社あけぼの印刷社

平成28年度 通常総会開催される

平成28年5月27日(金) 午後2時30分
茨城県立県民文化センター 小ホール
報告：総務・企画委員会



第65回となる平成28年度通常総会が5月27日(金)県民文化センター小ホールにおいて開催された。

当日は336名の出席と320名の委任状があり定足数に達していることが司会者から報告され、松山副会長による開会のことばで通常総会が始まった。まず、平成27年度に亡くなられた常総支部堀越市郎氏他8名に対し黙祷が行われ、続いて柴会長が挨拶。熊本における大規模な地震災害の話題から、昨年の本県における鬼怒川決壊による水害にも触れ、建築士会として住宅相談・罹災調査の協力を行ったことを報告。また、本会の事業としては5つの常設委員会を中心に活動を続けており、加えて本年度は、第3回となる「いばらき木造塾」の開催、昨年度の空き家対策特別法の施行を受けての空き家対策への協力、さらにヘリテージマネージャーによる県内の歴史的建造物の調査協力、木造事業普及のためのマニュアルの作成、その他各種講習会の開催や会員への情報提供などを引き続き行い、今後も組織の強化と会員増強に努めていきたいと述べた。

功労者表彰では、長年にわたり士会発展のために尽力された日立支部荒木達成氏他4名に表彰状と記念品が贈られた。

続いて来賓挨拶に移り、橋本昌県知事、岡田広参議院議員、田所嘉徳衆議院議員、高橋靖水戸市

長、白田信夫県議会議員より祝辞をいただいた。

祝電披露の後、議事に入り、平成27年度事業報告と収支決算、会計監査報告、平成28年度事業計画(案)と収支予算(案)、理事の改選など5議案を審議。原案通り全会一致で可決し、武村副会長の閉会のことばにより閉会となった。総会終了後は県民文化センターグリルにおいて懇親会が開催された。

*平成28・29年度新役員、平成28年度事業計画については、本誌P9に掲載しています。

●来賓の方々

茨城県知事	橋本 昌 様
参議院議員	岡田 広 様
衆議院議員 建築士会顧問	田所 嘉徳 様
水戸市長 建築士会顧問	高橋 靖 様
茨城県議会議員 建築士会顧問	白田 信夫 様
茨城県土木部都市局建築指導課長	小沼 紀男 様
茨城県土木部営繕課長	鈴木 安行 様
茨城県土木部都市局住宅課長	海老沢 和雄 様
(一社)茨城県建築士事務所協会 会長	横須賀 満夫 様
(一社)茨城県設備設計事務所協会 会長	菊 地 繁 様
(一財)茨城県建築センター 理事長	江原 秀明 様
(一社)茨城県建築士会 相談役	滑川 浩一 様
(一社)茨城県建築士会 相談役	田中 實 様
(一社)茨城県建築士会 相談役	関根 慎一 様
茨城新聞社 社長	小田部 卓 様
日本工業経済新聞社 水戸支局長	沼田 好世 様
日本建設新聞社 水戸総局長	井上 哲郎 様



三

【第3回】平成27年9月19日⑤【実習】

【講師】鈴木 翔吾氏 【内容】前半：木材を育てる話（林業家の話を聞く）／後半：製材所で木材の知識を得る



二

【第2回】平成27年8月22日④【講義】

【講師】松本 昌義氏 【内容】前半：伏図を考える手順と演習、矩形図の考え方と演習／後半：建具講座（框戸、フラッシュ戸）

平成27年度 いばらき 木造塾 終了報告



平成27年度の「いばらき木造塾」は、51名の受講生が昨年6月から今年の3月まで全9回の講義実習に全力で臨みました。

平成28年度が最終回です。ぜひ皆さまご参加ください！

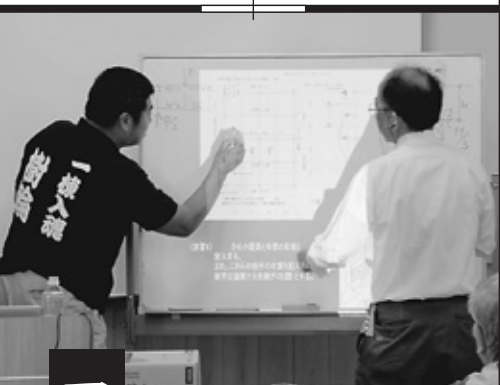
木造塾 塾長 藤井 耕市

木造建築や木材等に関する技術、知識を習得し、住宅設計、木造建築の技術に精通した建築士の育成を目的に、一昨年より開講された「いばらき木造塾」。第2回目となる平成27年度の講座が3月に終了しました。

講師は、今年度も昨年に引き続き、建築家の吉田桂二氏に師事し「木の建築学校」などの講師としても活躍中の松本昌義氏にお引き受けいただき、その他の講師の先生のご協力もいただいて、全9回の講義実習を開催しました。

今回は昨年度より10名多い51名が参加。座学の会場には、昨年と同様、株式会社茨城県木材相互市場さまのご協力を得て社内会議場をお借りして講義を行いました。また、昨年10月には現場見学として、福島県矢祭町での製材所見学なども実施しました。

平成28年度も第3回木造塾を開催します。松本先生も「3年間はやり続けましょう」と引き続きご協力いただくことになっています。平成28年度が木造塾の締めくくりの最終回となります。講義1回ごとの参加も可能です。興味のある方はぜひ建築士会事務局にお申し込みください。



一

【第1回】平成27年6月20日③【講義】

【講師】松本 昌義氏 【内容】ガイダンス講義（木造塾で学ぶもの）／前半：一般性と柔軟性に富んだ間取り、架構グリッドプランニングの復習／演習：架構グリッドで間取りを考える／後半：建具講座（開口部周りの納まり）

四

【第4回】

平成27年10月17日Ⓟ【講義】

【講師】松本 昌義氏 [内容] 前半：計算による梁断面の求め方／演習：平面図に屋根をかける／後半：建具講座（格子戸、舞良戸）

六

【第6回】

平成27年12月19日Ⓟ【講義】

【講師】松本 昌義氏 [内容] 前半：屋根の形と間取り／演習：大屋根の間取りと伏図／後半：建具講座（障子、襖）



七

【第7回】

平成28年1月16日Ⓟ【講義】

【講師】山田 貴宏氏 [内容] 講義：温熱環境講座・木造住宅の省エネルギーの知識と技術を学ぶ（その2）



五

【第5回】平成27年11月21日Ⓟ【講義】

【講師】山田 貴宏氏 [内容] 講義：温熱環境講座・木造住宅の省エネルギーの知識と技術を学ぶ（その1）



八

【第8回】平成28年2月20日Ⓟ【講義】

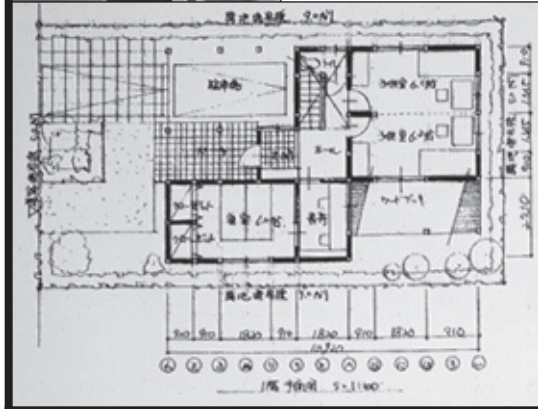
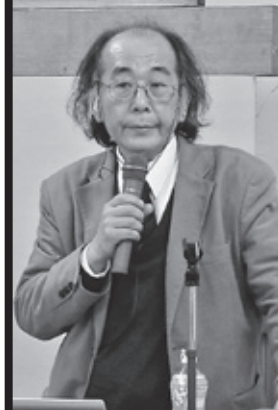
【講師】松本 昌義氏 [内容] 前半：都市型の間取り／演習：Max30坪の家の間取りを考える／後半：建具講座：建具デザインのバリエーション

九

【第9回】

平成28年3月19日Ⓟ【講義】

【講師】松本 昌義氏 [内容] 前半：継手、仕口を覚える／演習：芯継ぎで伏図を考える／後半：建具講座（建具金物）



平成27年度
修了生の
感想

全9回の講義・実習修了、
お疲れさまでした！

学ぶ機会のなかった分野に
取り組むことができました。

笠井 陵平（土浦支部）

私は今年度からの受講で、緊張の初日から始まりました。まして昨年度の続きであることをお聞きし、一層不安にかられていましたが、いざ始めると、明るい雰囲気楽しく受講することができました。

受講内容は、架構を意識したプランニングや建具のことなど、今まで勉強しようと思ってもなかなか学ぶ機会がなかった分野にも取り組むことができ、今後の設計に活かしていくことのできる内容でした。

昨年の6月から始まり、3月までの長期にわたる講習会でしたが、多くのことを学ぶことができました。来年度もまた受講したいと思っています。

松本先生の知識の深さに、
心から感銘を受けました。

栗野 徹（下妻支部）

私の家は三代続く工務店（大工）で、以前はケヤキの差し鴨居や松の丸太梁を使った骨太の農家の家を数多く手がけていました。しかしながら時代の趨勢には勝てず、今ではブレカットで刻んでしまうことが多くなってしまいました。

そんななか、今回「木造塾」を受講して、目から鱗が落ちる思いでした。手刻みの良さを改めて勉強することができましたし、こんなにも伝統工法に精通し、細部まで職人の仕事を理解した上で設計される松本先生に、感銘を受けました。構造材を表にした家は、建物を支える材料が見えることで住む人に安心感を与えます。その魅力と難しさを高い次元で学ぶことができました。ありがとうございました。

ここで学んだことを、今後の
実務でも課題としていきます。

飛田 直身（県央支部）

今回初めて「いばらき木造塾」に参加しました。木造の実践的な施工方法や、木造架構グリッドを応用し、柱・梁の

位置を考えながら間取りを決めていく方法に、とても興味を持ちました。また、国産材を使ってコストを抑えてつくる方法や、間取りと建具との関係性についての内容は、今後の実務の中で課題にしていきたいひとつとなっています。

一年間を通しての講義は、木造の知識を深めることができる充実したものでした。ありがとうございました。



[建築作品紹介]

日立市立 水木小学校

東に海、西に山を望む恵まれた立地を生かし、
地域の伝統や風土と調和する飛躍のステージを創出。

校舎間のテラス 正面に太平洋を望む

水木の自然とともに

東に光輝く太平洋と西に緑豊かな山容を望む丘の上に水木小学校があります。太平洋からのぼる太陽と、爽やかな潮風を取り入れ、歴史と伝統、景観及び風土に調和した温かく、やさしく、楽しい飛躍のステージを創出しました。

様々な表情を持った空間の中で学習や異世代交流、地域交流がスムーズに行われる環境をつくり、人づくりや街づくりにつながる学校としました。3つに分棟された校舎は、海岸地域にある民家と庭の構成や通りの構成をモチーフにしたもので、伝統を継承し景観に調和した建物としています。

新校舎と既存施設の有機的な連携
敷地内には、耐震補強済の校舎

と屋内運動場及びプールが残っており、これらの施設と改築校舎の有機的な連携を図ることができる配置計画としました。

改築校舎を南北方向に配置して既存施設へのスムーズな動線を確保した上で、新校舎と既存校舎を一体化させ機能性の向上を図りました。

さらにグラウンドは校舎の東側に配置することにより、改築前の日当たりの悪さを解消し冬季にも全面使用可能な日当たりのよいグラウンドとしました。

普通教室は日照や通風、水木浜への眺望を積極的に採り入れた全室南面の健康配置とし明るく快適な学習環境としました。3棟並んだ校舎の各棟は日照を確保することができるよう適度な間隔で配置し、校舎

間はテラスを設けて教室やグラウンドと連携したさまざまな活動に使用できる空間としました。

また屋内運動場と新校舎の接点となる部分に設けたスポーツテラスは、半屋外空間と室内空間の融合により学校の活動空間に広がりを持たせています。

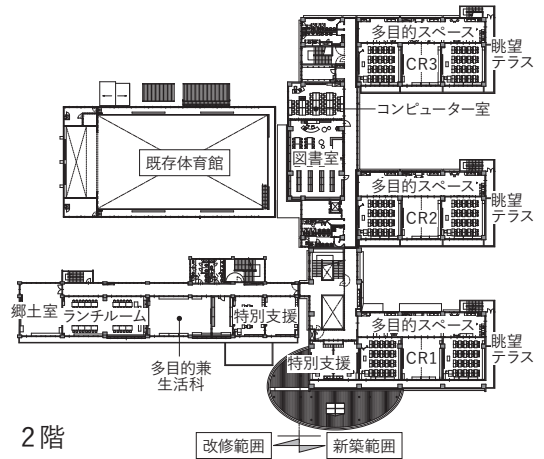
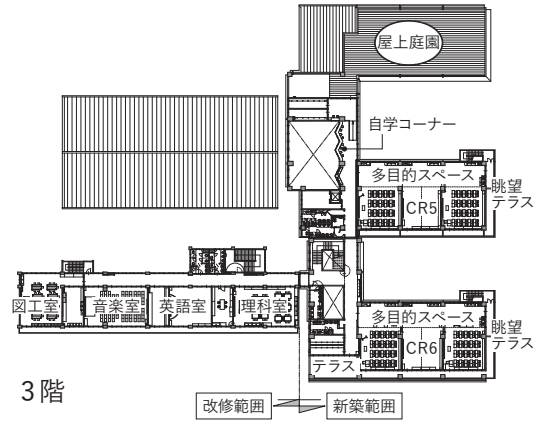
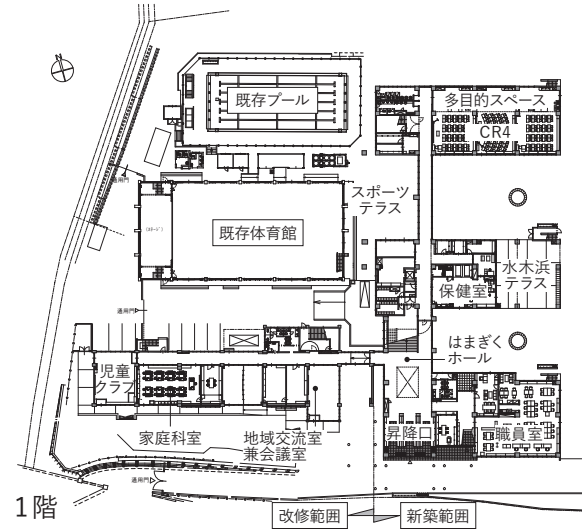
多様な学習への対応

新校舎は管理・普通教室ゾーン、既存校舎は特別教室・地域開放ゾーンと明確に機能性分けを行い、学校環境の整理を行いました。

普通教室は学年毎のまとまりを保つ学年ユニット形式としています。低・中・高学年で形態の異なる学年ユニットは、教育環境や学級数が変化しても学年のまとまりが確保され、

日立市立水木小学校

所在地 茨城県日立市
 設計・監理 (株)横須賀満夫建築設計事務所
 建築面積 2,067.53㎡
 延床面積 4,112.29㎡
 構造 鉄筋コンクリート造一部鉄骨造、
 地上3階



安定した学習・生活環境となります。

メディアセンターを各学年から利用しやすいように中間階(2階)に配置し、学年ユニットを連携させることで児童が自ら学ぶことができる学習環境としています。

既存校舎は教室の配置換えを行い機能を整理して校舎の全面リニューアルを行い、教育環境の変化に対応した施設整備を行いました。

豊かな学校空間

昇降口の正面には3層吹き抜けの空間を設け、上部のトップライトより光が降り注ぐ明るく開放的な空間としています。そして1階部分に大階段を設け、児童が自発的な活動を誘発する空間を創出しました。また階段を登り切った各階ホールは

太平洋を望むことができる見晴らしの良い空間となっています。

さらに北側校舎の屋上には太平洋を一望できる屋上庭園を設け、爽やかな環境の下、ランチテラスとしての利用など様々な活動を展開できる場所としています。

校舎の外部にはタイルを使用し建物の耐久性を高めると共に、大地の土の持つやわらかく暖かい表情の色づかいの建物とし、さらに校舎内部の仕上げは木質化を図り健康的でぬくもりがある心地の良い空間としました。

環境への配慮

地球温暖化抑制への配慮と、児童への環境教育の一環とした施設づくりを行っています。

通風や採光など自然力の活用を

基本としながら、太陽光発電や雨水による散水等への利用などの自然エネルギーの活用や、屋上緑化による熱負荷の軽減など環境に配慮した施設としました。



3層吹き抜けのはまぎくホール

ようこそ フレッシュマン!!

Welcome Freshmen!!

建築士会に新たに入会された
会員の方々を紹介するコーナー。
今号では5名の皆さんに登場いただき、
建築士会会員となつての
抱負などについて伺いました。



岡崎 和裕 さん

平成28年入会
[県央支部]
暁飯島工業株式会社

建築士会での活動を通じてさらなる挑戦を続けます!

50歳はまだ挑戦の折り返し地点とと
らえ、各種イベントに参加し、多方面
で活躍されている士会の先輩方との交
流を通して正しい技術を修得し、知識
を広げ、ステップアップできるよう精進
していきたいと思っています。

日頃は管工事業に携わっていますが、
安全・安心・快適な建物を建築する一
員として社会に貢献していきたいと思っ
ています。どうぞよろしくお願いいたします。



菊地 政也 さん

平成28年入会
[県央支部]
菊池建築工業

建築士会ならではの社会貢献活動に期待しています。

以前より建築士会に興味があり、こ
のたび入会しました。さまざまな会員
の方々との交流がとても楽しみです。

すでに個人として地域に対する活動
を行っていますが、建築士会ならではの
社会貢献活動に期待しており、その

お手伝いができればと思っています。

将来的には、デザインや耐久性、住
み心地に考慮した家づくりに携わり、ま
た、パブリックマインドを持ち、手がけ
た物件の周囲も生き生きとするようなプ
ロジェクトを行いたいと思っています。



鈴木 達也 さん

平成28年入会
[県庁支部]
県西県民センター建築指導課

専門技術者としての意識を持ち続け、 技術力の向上を図ります。

建築士という専門技術者であること
の意識を持ち続け、建築士としての知
識・経験を積んでいけるよう日々精進し
ていきたいと考えています。

建築という分野は、関わる事柄が多
岐にわたり、幅広く、そして深い見識

が必要であると強く感じています。建
築士会を通じて建築士の方々と交流す
ることにより、自身の技術力の向上を
図っていければと思います。どうぞよろ
しくお願いします。



須田 裕美 さん

平成28年入会
[日立支部]
日立土木株式会社

講習会や話題の建築作品の見学会に 参加するのが楽しみです。

はじめまして。平成28年2月に入会
しました。茨城県に住んで10年目にな
ります。

建築士会へは、会社の勧めで入会し
ました。まだ活動に参加したことはな
いのですが、充実した講習会や話題の

建築作品の見学会等に参加することを
楽しみにしています。

知識・経験ともにまだまだ未熟者で
す。早く一人前の建築士となり、仕事
を通じて地域に貢献できるようになり
たいと思っています。



関 康彦 さん

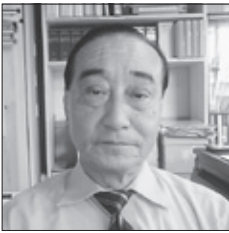
平成27年入会
[県央支部]
一級建築士事務所 scale

地域の人々を守り、地域の一部となるような 建築を目指します。

はじめまして。平成27年4月に設計
事務所を開設しました。これから建築
士会の講演会や行事等に積極的に参
加し、先輩方や同世代の建築士の方々
との交流を通して得たものを、自身の
業務に活かしていきたいと思っています。

私は現在までにさまざまな用途の建
築を設計する機会に恵まれてきました。
その経験を活かし、地域の人々を長期
間守り、その地域の一部となるような
建築をひとつでも残せるよう、精一杯
努力していきます。よろしくお願いいたします。

士会会員として長きにわたり活躍されてきた先輩方を訪問し、お話を伺うコーナー。第29回となる今回は、筑西支部の廣瀬 茂氏と、県央支部の金沢 悦男氏を訪問し話を伺いました。
聞き手＝情報・広報委員会 谷島正憲、浅野祐一郎



「失敗を恐れず、視野を広げ、目標に向かってチャレンジ！」

廣瀬 茂 氏 (筑西支部)

昭和19年生まれ／昭和45年入会／会員歴46年

下館市生まれ、下館市育ち。26歳で住宅会社を立ち上げて以降、現在の設計事務所設立に至るまで、筑西市を地盤に設計以外にも鉄工所の工場長などさまざまな業務を経験。その経験から得た深い知識と技術で後輩から頼りにされる先輩会員。

——建築士会の後輩へのメッセージをお願いします。
私は失敗の連続でここまで来ましたが、そのすべてが貴重な経験となりました。今の若い人たちは失敗を恐れ安定を求めているように思いますが、自分の経験からすると、失敗したらどうする？ではなく、

まずはやってみる、チャレンジしてみる。今より視野を広げ、もっと広い世界を見ることが大切で、常に目標と計画に立ち向かうことです。

——今後の目標は？

これまでお世話になってきたこの地域にまだ何の恩返しもしていないことに気がつき、次代に技術を継承していきたいと思っています。これから何年仕事ができるかはわかりませんが、4人の所員はもとより、建築士会の皆さま、地域の皆さまに私の持てる技術、知識や経験を伝えることが、恩返しになるのではと思っています。(谷島)



「とにかくいろいろなことに挑戦してみることです」

金沢 悦男 氏 (県央支部)

昭和18年生まれ／昭和48年入会／会員歴43年

常陸太田市生まれ、県立太田一高卒。安田工業専門学校(東京)で建築を学び、卒業後は新宿に事務所を構える構造系の阿部設計事務所へ。恩師である所長は、当時日本を代表する建築家であった伊藤喜三郎氏や佐藤鉄雄氏(大隈講堂設計者の佐藤功一氏の子息)らとも交流があり、多くのことを学ぶ。その後、水戸に戻り設計事務所を開設。昭和48年に一級建築士の資格を取得し、主に鉄骨系の民間建築と住宅の設計を手掛ける。本業以外に、裁判所の調停委員、建築士会などが主催する講習会や専門学校の講師としても活躍。民謡の名取としても県内では知られた存在の、じつに多才な先輩会員。

——建築士会の活動で心に残ることは？

若いころ、水戸支部の一員としてソフトボールチームに参加し、たくさんのチームメイトと練習や青年部主催の大会で汗を流したことが貴重な思い出です。

——趣味として続けていることは？

27歳ごろに出会った民謡です。民謡を通じて多くの仲間ができたことが誇りです。また、37歳でソシアルダンス、47歳でウォーキング、57歳で山歩きと、10年を節目にいろいろと趣味を広げてきました。

——健康維持の秘訣を教えてください。

とにかく挑戦してみること。健康で張りのある生活が続けられるよう、これからも努めていきます。(浅野)



平成28・29年度新役員一覧

顧問	田所嘉徳	衆議院議員	諸川博幸	JR水戸設備部施設課
	高橋靖	水戸市長	細田吉貞	細田測量設計事務所
	白田信夫	茨城県議会議員	藤崎政行	藤崎建設工業(株)
	伊沢勝徳	茨城県議会議員	久米恒雄	久米建築設計事務所
相談役	田中實	(有)田中設計事務所	森均	森建築設計事務所
	滑川浩一	(株)竹中工務店 茨城営業所	小林澄夫	繁建築設計事務所
	関根慎一	(株)関根工務店	柴博美	関彰エンジニアリング(株)
会長	柴和伸	(株)柴建築設計事務所	飯村純男	SI建築設計事務所(株)
副会長	松山恒男	多賀土木(株)	小貫廣利	小貫建設(株)
	武村実	武村建築設計事務所	児玉欽司	(株)環境工作室
	市毛純一	(株)市毛建築設計事務所	稲葉光夫	稲葉建築設計事務所
専務理事	加藤繁治	(一社)茨城県建築士会	豊崎晋也	IBA建築事務所
常務理事	川又晴彦	川又晴彦建築設計事務所	鈴木啓之	(有)アップル建築設計事務所
	高槻一雄	(有)高槻建築設計事務所	成田孝成	成田建築設計事務所
	岡田一夫	岡田建築設計事務所	横須賀孝	(株)横須賀満夫建築設計事務所
	久保田吉文	(有)クボタ建築設計事務所	平沼清美	(株)オーデック
	潮田充	(株)潮田建設	監事 上遠野正勝	
理事	篠原武司	(株)安心確認検査機構	遠藤洋三	
	木村千明	木村工務店	水口二良	水口・野村法律事務所
	棚谷哲夫	棚谷建築設計事務所	江原秀明	(一財)茨城県建築センター
	小沼紀男	県庁建築指導課		

平成28年度事業計画

指導事業

01. 会員増強及び組織強化の推進
02. いばらき木造塾の実施
03. 工事管理者セミナーの実施
04. 市町村の空き家対策事業への支援
05. 関東甲信越建築士会ブロック会理事会の開催
06. 建築士試験業務の実施
07. 一級建築士免許申請事務及び二級・木造建築士登録事務の実施
08. 建築士法第22条第2項による「定期講習」の実施
09. 知事指定講習会「建築士技術講習会」の実施
10. 監理技術者講習の実施
11. 専門分野別建築士の養成
12. 建築パトロール調査の実施
13. 木造住宅耐震診断士派遣事業の実施
14. 応急危険度判定士の更新及び登録事務の実施
15. 災害発生時支援活動の協力体制の充実と災害積立金の実施
16. 全国被災建築物応急危険度判定協議会への協力
17. 茨城県安全安心実施計画への協力
18. 緑化推進事業(苗木配布)の推進
19. まちづくり事業の推進及び地域貢献事業の実施
20. 継続能力開発(CPD)制度及び専攻建築士制度の推進
21. 建築士会全国大会「大分大会」への参加促進

22. 関東甲信越建築士会ブロック会青年協議会「山梨大会」への参加促進
23. 建築士賠償・工事賠償責任補償制度への加入促進
24. ホームページによる情報提供及び広報活動の推進

調査・研究

25. 建築士業務の適正運営の推進
26. 新規事業の企画・立案

情報提供・図書の斡旋

27. 会報誌「けんちく茨城」の発刊、支部との情報交流の推進
28. 建築確認申請・建築許可・都市計画関係諸書式の頒布
29. 建築士受験関係図書その他参考図書の斡旋

国家褒章等

30. 国家褒章等の上申
31. 連合会表彰の上申及び功労者表彰の実施
32. 会員増加優良支部の表彰の実施
33. 建築優良作品の推薦

その他

34. 行政機関及び関係諸団体との協力体制の維持
35. 本会の目的達成のために必要な事業の実施

第19回会員美術展開催。今年も会員の皆さんの力作が揃いました！

平成28年3月16日(水)～3月21日(月) 茨城県立図書館1階ギャラリー

19年もの長きにわたり、会員とその家族の美術作品の発表の場として開催されてきた会員作品展が、今年も茨城県立図書館1階ギャラリーで、3月16日から21日まで開かれました。書、日本画、洋画、陶芸、工芸、写真とジャンルは多彩です。

会場は休憩スペースの動線上にあり、多くの図書館利用者が足を止め作品に目を向けていました。作品にはそれぞれの作り手の思いや人柄まで感じ取ることができます。さまざまな活動をしている仲間を理解するという点でも、ぜひ会場にお越しただいただければと思います。そして、何より一人でも多くの会員の方に、仕事以外の分野での活動の発表の場として気軽に活用いただけますように。会員の中には、まだまだ展示するまでに至ってはいないと考えている方もいらっしゃると思いますが、次回こそは発表の場としてご利用いただき、この美術展が会員の交流の場として生かされ、20回・21回と継続して開催されることを願っています。

「会員美術展」

展示作品提供者一覧(敬称略)

【絵画】 ●増澤敬(県央支部)「憩いの時」(F8号) ●市川三和子(久慈支部)「ガーベラ」(F4号) ●大槻薫(県央支部)「Metoro」(18号)、「Hibiki」(50号)、「Reonarud no omoi」(色紙) ●守田義広(県央支部)「カフェ」(F6号) 【日本画】 ●藤田信行(県央支部)「晩秋」(F50号) 【書】 ●青山孝夫(土浦支部)「秋の暮」(額装) 【写真】 ●柳下文江(県央支部)「夕暮れ-1」、「夕暮れ-2」、「夕暮れ-3」



(四つ切) ●青木博(古河さしま支部)「渡良瀬遊水地からの富士山 No.1」、「渡良瀬遊水地からの富士山 No.2」、「古河市花火大会」月・星参加の袋田の滝(ライトアップ)「唐沢山からの富士山 又は、筑波山」(半切・A3ノビ) ●平沼清美(県央支部)「ふたつの顔」、「琥珀へのいざない」、「如意輪観音」(半切) ●浅野利光(県庁

支部)「射す陽光」、「春うらら」(半切・額装) ●小川憲一(県央支部)「秋の丘」、「落日の山間」、「金色の里」(四つ切) 【陶芸・工芸等】 ●酒井順子(土浦支部)「かさ立て」(300×300×150) ●五十君智子(土浦支部)「ビーズアクセサリー-1」、「ビーズアクセサリー-2」、「ビーズアクセサリー-3」(コルクボード)



初の「合同交付式」に86名が参加、早速11名が会員に。 平成27年度一級・二級・木造建築士免許証明書交付式



写真上：参加者を代表して柴会長より免許証明書の交付を受ける大内氏

下左：県庁担当官氏より建築士としての心構えなどが説明された／下右：建築士トークセッションの様子

平成28年2月26日(金)、昨年度の建築士試験に合格し、免許登録された方々の免許証明書交付式が行われました。青年女性委員会が中心となりこの交付式を行うようになって、今回で3回目となります。これまでは二級建築士と木造建築士が対象でしたが、今回から初の試みとして、一級建築士の合格者も含めた、合同での交付式が実現しました。参加者は合計86名。昨年まではやや寂しく感じられた広い

式典会場ですが、今回は人数が増え華やかさも増しました。

年々建築士会の会員が減少するなか、建築士免許を取得した若い方々に建築士会の活動をPRし、入会へのきっかけを積極的につくれるよう、私たち青年女性委員会が取り組んでいます。

式典後に行うセミナーは、建築士会に興味を持っていただけるよう委員会で話し合いを持ち、青年委員会が行っている関プロの活動発表や

トークセッション、また、すぐに役立つ確認申請についてなど、盛りだくさんの内容となりました。お陰様で当日と後日合わせて11名に入会いただきました。うち5名の方が一級建築士でしたので、今回合同交付式として行った成果は大きかったと思います。

私たち青年女性委員会では、志を同じくするたくさんの仲間を増やし、自己研鑽の場として建築士会を役立てていただけるよう、今後も活動を続けていきます。

「わくわくセミナー」 リフォームや省エネの今を考える機会に

平成28年2月のわくわくセミナーは、株式会社小泉より一瀬氏、小澤氏の2名を講師としてお迎えし、国土交通省が策定・公表しているストック住宅活性化に係る取り組みに伴った住宅リフォーム事業団体登録のベターライフリフォーム協会についてや、最新の補助金制度・建設物省エネ法の概要について、お話を伺いました。

近年増えてきているリフォームの受注について日ごろ感じている問題点や方法など、また、省エネについての補助金制度のことなど、消費者



講師陣は株式会社小泉からお招きした

からの目線だけでなく、施工する側からも、安心できる環境を考える機会になったと思います。



熱心に資料に見入る参加者の皆さん

「ラブアークセミナー」 ひょうたんランプに感激

3月19日(土)、常陸大宮市の旧盛金小学校にて、ラブアークセミナー「ひょうたんランプシェード作り」が開催されました。旧盛金小学校は、平成15年に廃校になった小学校で、小高い山の中腹に位置する自然豊かな環境の中にありました。ここで活動されているのが盛金WAC協議会の皆さん。地域や都市交流推進等の目的のためにさまざまな活動をされているとのことでした。今回は、協議会の皆さんの手で育てられ、種取りまで施されたひょうたんを使って、ランプ作りを教えてくださいました。展示されたひょうたんランプを見ると、はめ込まれたビーズ、周りに開けられた細かな穴から漏れる光の美しいこと。私にもできる



完成品の前に記念撮影

のか不安でしたが、講師の説明を受けて作業を始めました。

まずデザインを決め、次にひょうたんの表面に書いた線に沿って目打ち、ルーター、電動工具等を使って大小の穴を開けていきます。「根気よく作業をすることが上手にでき上がるコツです」と教えられ、皆さん黙々と作業を行います。穴を開けることはそんなに



明かりが漏れる様が美しい

難しいことではありません。デザインが良ければ良い作品ができそうです。時間の経つのが早く感じられました。

3時間ほどで作品ができあがり、LEDライトを下から照らすと、ほの

かに明かりが漏れ、その仕上がりに満足しました。とても楽しい体験セミナーでした。講師をしていただいた梶さんに感謝します。



「第10回都市景観ウォッチング」開催 市民の皆さんと三の丸歴史ロードを歩き、その魅力を満喫

平 成27年11月28日(土)、上々のお天気の中、旧県庁に集合。参加者29名(一般市民24名、建築士会員2名、企画委員会スタッフ3名)と歴史アドバイザーの藤澤さんとともに9時15分に出発しました。

「東武館」では、道場の中で、師範であり事務局長の上田忠夫氏から東武館の成り立ちや北辰一刀流の型、また建物・道場のお話などを伺いました。

その後コースに沿って、委員会メンバーの岡山さんや歴史アドバイザーの藤澤さんによる説明を聞きながら進みました。

「弘道館」では時間を多めに取り、修復の様子を見て廻りながら、藤澤さんからウイットに富んだ楽しいお話をいただき、皆さん熱心に聞き入っていました。修復の内容が、内壁の構造についての話にも及び、改めて勉強の場となりました。

その後、岡山さんからは土塁の発掘現場や再生された「門」の数々・型と、それぞれの特徴などについて、現物を前にしながら解りやすく、的確な説明がありました。藤澤さんからは、歴史的な背景を含め、その役割などの話があり、さまざまな角度からの話をお二人交互にバランス良い形で聞くこと



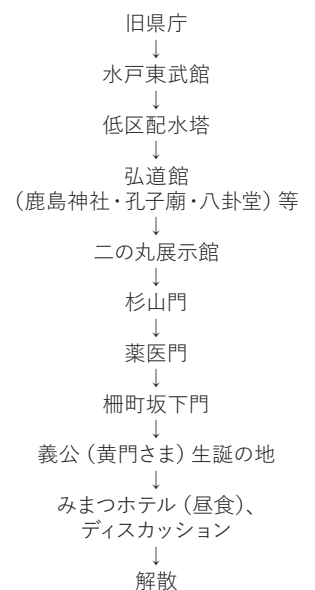
写真上から：東武館の道場内部/弘道館敷地内にある八卦堂/国の重要文化財である弘道館の正門前で記念撮影/柵町坂下門

ができました。そのまま歩を進めながら、昼食会場「みまつホテル」へと向かいました。

食事の後、参加者同士のディスカッションの場を設け、一般の参加者の方から「建築士会とは?」、「建築士の仕事とは?」など、いろいろな形での質問を受けました。活発な質疑応答となり、また、住宅を建てる際の質問なども受けました。その後、アンケートに記入いただき、解散となりました。良い形で建築士会のアピールができたのではないかと思います。

ほぼ予定通り14時ごろ終了となり、皆、心地よい疲れの下、帰路に着きました。

三の丸歴史ロード 弘道館・水戸城跡周辺～門 まち歩きコース



「都市の床の間」をコンセプトにした石岡の新たな玄関口 常磐線石岡駅橋上化及び自由通路新設工事



1. はじめに

常磐線石岡駅は、茨城県石岡市に位置し、1日当たりの乗車人員が約5,500人である。既存駅舎は、1929年に木造平家建で建設された。2007年4月に石岡駅に接続していた鹿島鉄道が廃線となり、2010年8月からその軌道敷跡の一部をBRT専用道として利用している。また、石岡駅は茨城空港の最寄駅であり、今後計画されている南口新BRT広場が石岡新駅舎に接続され、鉄道とBRTと航路が一つに結ばれる。石岡市は、東西自由通路が2次交通との結節点を備える石岡駅を街の新しい玄関口として、ご利用のお客さまの利便性を向上させ、賑わいのある街の中心拠点の形成を目指し、駅周辺整備計画の検討を進めた。

2. 計画概要

〔駅設備〕

- ・構内配線：2面3線
- ・橋上駅舎：約1,385㎡
- ・昇降設備：EV2基、ESC2基

〔自由通路〕

- ・通路：幅員約5m、延長約100m、約1,102㎡
- ・昇降設備：EV2基、ESC6基

〔都市施設〕

- ・観光案内所・展示スペース、公衆トイレ他：約181㎡

3. 平面計画

自由通路は、東西口広場、BRT広場と3か所ある駅前広場への利便性を向上させるためにバリアフリー設備（EV、ESC）を設けた。また、東口広場とBRT広場には約4.2mの高低差があり、各広場への移動をスムーズにするため、自



写真上：北西側からの外観／下：西口階段

由通路中間部にEV、ESCを設置した。

西口広場に面した位置には観光案内所、公衆トイレの他、関東三大祭りの一つである「石岡のお祭り」を飾る山車や獅子が展示され、お祭りを大切にするまちの暮らしの一コマを演出している。

駅設備は、コンコース階に旅客トイレ、多機能トイレ、窓口、駅事務室、券売機室等を設けた。駅後方施設を1、2階に分散させ、自由



2階自由通路（夜景）



改札上部には、旧駅舎に設置されていた「石岡駅」と書かれた駅名標を設置。この駅名標は、徳富蘇峰の手になる書を、蘇峰の秘書が彫刻したもの



写真上：2階自由通路／下：自由通路には地元出身の滝平二郎氏の作品を描いたスタンドグラスを設置

通路に面した店舗、待合スペースを配置し、利便性を高めている。

4. 設計コンセプト・特色

設計コンセプトは、歴史を継承する石岡の街並みに溶け込む「都市の床の間」とし、西口ファサードの屋根形状に違い棚のような段差をもたせた。「床の間」の掛け軸の役割として、西口壁面に高さ7m幅30mのデザインタイルを採用した。これは、高浜の恋瀬川から

見た筑波山、霞ヶ浦、鶴の風景をモチーフとしている。デザイン制作は、(株)藤代範雄デザイン事務所が担当した。

[スタンドグラス]

自由通路の窓面には、地元小美玉市出身の滝平二郎氏の作品を描いたスタンドグラスを設置した。春夏秋冬をモチーフにした作品は、いずれも地元筑波山の風景を描いたものとなっている。

[駅名標]

駅改札上部にある木製の駅名標は、旧駅舎に設置されていた徳富蘇峰が書したものを彫刻したものである。当時の石岡駅長（笹谷和三郎）や石岡市の窪田婦久氏の要望により、蘇峰が89歳の時に書した。彫刻は、蘇峰の秘書、塩崎彦市氏が行った。当時、駅長から蘇峰へ送った手紙が、神奈川県にある徳富蘇峰記念館で確認できる。

5. おわりに

2016年3月30日に完成式典が開催され、地元の方が多数集まる中、協議・工事に携わった者で無事の完成を祝うことができた。関係各所の皆様に誌面をお借りしてお礼を申し上げますとともに、石岡駅が地域の皆さまに末永く愛されることを願います。

全長14.3kmのローカル線「ひたちなか海浜鉄道」に乗り、途中下車をしながらのんびりと歴史的建造物を巡る旅



ひたちなか海浜鉄道にのんびり揺られながらの旅



上:ときどき途中下車/下:反射炉にて集合写真

茨 城県建築士会県北ブロック協議会見学会「ひたちなか地区探訪」が、平成28年2月27日(土)に開催されました。

今回は趣向を変え、“ひたちなか海浜鉄道でローカル線を楽しもう”ということで、公共交通と自らの足を使つての街歩きを計画しました。

始発勝田駅から終点阿字ヶ浦駅まで10駅、全長14.3km、乗車時間26分のひたちなか海浜鉄道。私は初乗車です。車窓からは地域住民が暮らす民家、野山、広々とした水田やさつま芋畑の景色が続き、鎌倉の江ノ電なみの人気スポットとの期待感がもてました。

那珂湊駅で途中下車し、ひたちなか観光協会のボランティアガイドさんの先導で歴史的遺構を見学しました。那珂川沿いの明治20年頃創業の菓子屋「稲葉屋」の黒飴「反射炉の鉄砲玉」をおやつに、県指定文化財「華蔵院の梵鐘」で有名な真言宗智山派華蔵院の説明を受け、山上門、湊公園をまわり、まちかど博物館としていまだに活躍す

る古い商店である明石家(名入れのカレンダーやうちわの商い)や、あさ川(菓子店)等約3.5kmの行程を散策しました。再度、阿字ヶ浦駅まで鉄道に乗車。阿字ヶ浦駅は阿字ヶ浦海水浴場が見渡せる高台にあり、ここからひたちなか海浜公園の海浜口風のゲートまで約3km移動(チャーターバスを利用)。残念ながら駅からひたちなか海浜公園までは路線バスもありません。ぜひ鉄道の延伸を望みます。そして公園内のシーサイドトレインと直結したらワクワク感倍増!!

公園内をひたすら歩き、目指すは古民家。この古民家は茨城県内の民家を移築して復元され、東日本では最も古い建物のひとつです。古民家にとくに造詣の深い日立支部の会員さんの講習を受け、建築士としての本命を達成できました。まだ集合時間前なのに帰りの時刻を知らせる園内放送を「わざとらしく」流してもらい、建築士会のコマースルを入れつつ(事務局助川氏の策略)、無事予定コースを完歩



実はこの路線、駅名標が凝っています

できました。

しめくりは、那珂湊といったらなんといってもお魚市場。5年前の震災で被災した市場付近も修復され、にぎわいも戻っているようです。もちろん昼食でも懇親会でもお刺身や海の幸を堪能し、満足する一日となりました。

最後に飛び入り参加した本部事務局の助川さんより一言。

「毎年、ひたちなか支部さんでは、地元再発見の素敵な見学会を開催されていて、ぜひ参加したいと川又支部長に無理を聞いていただき参加させていただきました。私も一応会員ですが、支部は県央支部なので…。勝田駅で買った勝田パンは、受験生に喜ばれました。ありがとうございました。」



大人も子どももハイスコアを目指して大奮闘！ 家族ぐるみで交流を深めあうよい一日に



獲得した賞品を手に記念撮影。皆さん満足げな笑顔



川又支部長の始球式は見事にストライク！

3月12日(土)、ひたちなか市にあるミナミボウルで、毎年恒例のひたちなか支部青年女性委員会主催によるボウリング大会を実施しました。参加者は大人9名、子ども4名の計13名。大人レーン2つと家族レーンの2つに分かれスタートしました。

ゲームは豪華賞品付きで、毎年ユニークな製品や新しい製品を見つけることが得意な東海地区のKさんが担当。今回の賞品は、会員も年々平均年齢が高くなってきていることから、健康維持に役立つような豪華指圧風もみ玉マッサージ機や腹筋マシン、また仕事や

日常でも使えるような電子式メモ帳や携帯電話の画面をテレビで見ることができる電気製品、主婦に喜ばれそうな米10kgや缶ビール1箱、そして、建築に携わる人の興味をそそるナノブロックというピンセットでつくる東京スカイツリーのミニチュア模型です。これらの賞品を賭けて熱い戦いが始まりました。

川又支部長のあいさつの後、始球式へ。昨年度はガターでしたが、今年は見事ストライク。幸先の良いスタートとなりました。

私も、支部長のストライクに続こうとこん身の一球を投げましたが、肩の力が入りすぎて、倒れたのは5本

のみ、残念…。ゲームはストライクやスペアが出るたびに盛り上がり、家族レーンの子どもたちもストライクやスペアを取るたび笑顔で歓声を上げていました。父親として子どもにボールの投げ方を教えたり、重い玉を軽々と投げるたくましいお父さんの姿も見せることができました。

優勝は合計点数314点のTさんで豪華健康器具を獲得しました。私は意外とよいスコアで6位となり、ビール1箱をいただきました。また、私の子どもたちは色鉛筆のように描ける水彩文具を獲得しました。

ボウリング終了後は近くの居酒屋で懇親会を開き、交流と情報交換を行いました。次の日は筋肉痛と二日酔いとなりましたが、会員同士や家族の親睦を深めることができましたよい一日となりました。

世界遺産・富岡製糸場と重伝建・桐生新町を訪ね、 住む街を愛する心の大切さを学ぶ



富岡製糸場をバックに記念撮影

石岡支部では、毎年歴史を大切にしている街の見学を行っています。今年は世界遺産・富岡製糸場と重要伝統的建造物群保存地区・桐生新町（群馬県桐生市）を3月6日（日）に見学研修してきました。

2012年に世界遺産に登録された富岡製糸場は、明治5年官営の製糸場として建設され、先人達の努力により、現在までよく保存されています。入場料を払い、場内を地元のガイドさんに約1時間説明を受けながら回りました。ガイドをされている方々の言葉から、世界遺産・富岡製糸場を愛する気持ちがよく伝わってきます。この日もたくさんの方が訪れていて、前回訪れた時と比べ街が大きく変わっているのを実感しました。世界遺産効果のすごさを肌で感じました。

桐生新町は、江戸時代初期の町立てが当時のままほとんど変わらず残っているということで、2012年に重要伝統的建造物群保存地区に指定されました。保存地区内



重要伝統的建造物群保存地区の桐生新町を説明を受けながらじっくり散策

には江戸後期から昭和初期に建てられた主屋や土蔵、ノコギリ屋根の工場など、絹織物業に係わる建造物が残っており、平成27年度から本格的な保存が始まっています。「織都桐生案内人の会」の3名の方に説明を受けながら、1時間半ほど街なかを歩きました。

街なか見学後、座談会を設定していただき、桐生市重伝建街づくり課主任の遠藤麻美さんと、街づくり会社(株)桐生再生の社長・清水宏康さんのお話を伺いました。遠藤さんは、街を保存し後世に伝えていくことが大切と、スライド写真を交えながら熱っぽく話されました。清水

さんは、同級生10人でNPOを立ち上げ、今は株式会社を設立し、低速電動バスを走らせて産業観光や地域活動をサポートしている話などをしてくれました。

質疑応答では、街づくりや建物の保存の方法などについて話が弾み、予定の時間を30分以上オーバーしてしまいました。まだまだ聞きたいことはたくさんありましたが時間がなく、次の機会となりました。

自分たちの住んでいる街を愛している人たちがたくさんいることを実感し、このように熱い人たちが街を変えていくのだろうと感じながら、桐生を後にしました。



優しく触れてオキシトシンの分泌を促すタッチケア スウェーデン発祥の「タクティール®ケア」を体験

土 浦支部福祉のまちづくり探訪、通称「ふくまち探訪」の活動として、平成28年3月23日(水)、スウェーデン発祥のタッチケア「タクティール®ケア」の体験セミナーを行いました。

「タクティール」とは、ラテン語の「タクティリス」に由来する言葉で、「触れる」という意味があります。その意味が示すように、手を使って10分程度、相手の背中や手足を、柔らかく包み込むように触れるのが「タクティールケア」です。

私たちは、まずこの理念を資料を通して学びました。このケアは、もともと未熟児の担当をしていた看護師が、毎日優しく体に触れた結果、体温が安定し体重の増加がみられたことから「触れる」ことの重要性を確信し、メソッドができたそうです。日本では、乳児から高齢の健康な方、看護・介護の必要な方にまで幅広く活用されています。東日本大震災の際には、スターボックスと協力して大勢の被災者に対してケアが行われたそうです。

初めは「タクティールケア」と掲げた旗をみて、「何これ?」と不振に思



タクティール講師の原智代さん

われることが多かったようです。やがて興味半分で受けた方の口コミで、1人2人とケアを受けにくる方が増えていき、「体が温まってよく眠れるようになったあ」と多くの方から感想が送られるようになったそうです。

体験会では、まず講師の先生がお手本を見せてくださいました。その後、隣の方とペアを組み、いよいよ体験です。意識することは「触れる」こと。決して揉まない、押さない。優しく触れることで、幸せホルモンの「オキシトシン」が分泌されるのです。ケアを受ける側にも、する側にも分泌されるとのこと。触れてから7分で分泌が始まり10分で



ケアをする側も受ける側もポカポカに

MAXになるとのことでした。確かにケアをしていても、受けていても、心が穏やかになり体がポカポカしてきます。身も心もマツタリして、優しい気分になりました。

この体験を通して、私たちは日本古来の「手当て」を思い出していました。自身の手の持つ力を再認識させてくれた、貴重な体験セミナーとなりました。